トバログ

Tobalog is one of the most popular gadget blog in Japan

物欲を刺激する

ミレニアル世代のモノブログ

ABOUT TOBALOG

トバログは、2015年に誕生した
モノを中心に紹介する
レビューブログです。

ガジェットや暮らしの「モノ」
カバンの中身、旅の「コト」など幅広く
紹介しています。

トバログ
トバログ 管理人
鳥羽　恒彰
http://tobalog.com
@defreech
defreech
tobalog.com@gmail.com
https://www.facebook.com/tobalog/

DELL
BOSE

LEICA
ELMARIT-TL 1:2 R18 ACDU
UTILITY POUCH
FOR CARRYING TOOLS
- COTTON
- S : 11 POCKETS
195 × 142 × 55 mm
DELFONICS

物欲を刺激する
ミレニアル世代のモノブログ

何が欲しいわけでもなく、ときどき無性に何かが欲しくなる。
何気なくスマートフォンを手に取り、
インターネットの世界をゆらゆらと漂ってみる。

つぎつぎと移り変わるディスプレイをほーっと眺めると、
はっと気になるモノが現れる。
心の底に眠っていた物欲が湧き上がり、熱くなる。

そんな「欲しいモノを見つけた時の喜び」のはじまりが
このブログだったら――

そんな思いから 2015 年に
暮らしとガジェットのブログ「トバログ」を立ち上げた。

トバログは、PC やスマートフォンなどのガジェットを中心に
旅や暮らしなどの、中の人が感じた
さまざまな「モノ」や「コト」を紹介している。

綺麗な写真と、シンプルで読みやすい文章を心掛け
あらゆる人の物欲を刺激する、そんなレビューブログだ。

「今、何が欲しい――。」そんな時にちらりと立ち寄ってみてほしい。
きっとあなたの物欲が揺さぶられる記事に出会えるはずだ。

Author

トバログの中の人

Tsuneaki Toba

トバログの中の人

Profile

1993 年 2 月 28 日生まれの都内在住 25 歳会社員ブロガー。
トバログの中の人、ミニマリストの対岸にいる人。

鳥羽 恒彰（Tsuneaki Toba）

トバログ中の人 / 25 歳

鳥羽 恒彰（とば つねあき）について

茨城県日立市生まれ、福島県郡山市育ちの 25 歳。小中学校時代は日立の自然豊かな環境で自由に育ち、山や海を行き来しては生き物と戯れる生活を送っていた。小学 5 年生の頃から、父の影響で野球をはじめ、中学の終わりまで続ける。中学生の頃に親の転勤で郡山に引越し、地元では自転車で遠くまで旅をしたり、ちょっとリッチな秘密基地を構築して中学生時代を過ごした。その後、器械体操などアクロバティックなスポーツに憧れを抱いていた僕は、地元では器械体操が強かった日本大学東北高等学校に進学。3 年間器械体操部に所属し、鉄棒や床など日々技を磨く生活を過ごす。高校時代の思い出といえば体育館が思い浮かぶなど、青春時代は器械体操と共にあったと思う。高校時代に全国大会に出場できなかった僕は、大学でも器械体操を本格的にやりたいと思い、私立千葉商科大学に進学。大学 3 年時には念願だった全国大会出場を経験。その後、語学や海外での働き方に興味を持ちだして、頻繁に台湾など海外に赴くようになる。そんなこんなで大学時代をのんびりと過ごしつつも、ある日ブログという趣味に出会う。そのタイミングで Engadget 日本語版にて一年間インターン経験を積み、PR 会社でのオウンドメディア立ち上げや、都内の M&A のマーケティング事業に携わりながらもミレニアル世代向けのモノ系ブログ「トバログ」を運営している。2015 年 1 月の開設から約 3 年半経った今、月間約 30 万人が約 40 ～ 50 万回ほど読むブログへと成長している。

好きなモノ・興味のあるモノ

興味を持ったモノは基本的になんでも好きだが、主にスマートフォンや PC、タブレット、カメラなど、いわゆるガジェットが好きで、毎月なにか新しいガジェットを買っている。また、他人のカバンの中身のコンテンツだったりも興味があって、ブログではよく記事にして紹介している。基本的には新しいモノやコトが好きな一方で、革製品や文房具など、長く愛用できる普遍的なモノも好きだったりする。

好きなコト・興味のあるコト

人に会いに海外へ旅をしたり、お気に入りのカメラだけを持ってさんぽをしたりするコトが好き。フェスやイベントごとよりも、目的もなくぶらりとするのが好きなので、PC とカメラを持ってぶらぶらと散歩をしてから、近くのカフェに入ってかたかたとブログを更新するのが一番幸せな時間だと感じる。

今いちばん興味があるコト

最近は新しい働き方とか暮らし方といった方向に興味がある。例えば世界中を転々としながら働くノマドワークだったり、拠点を複数設けたデュアルライフのような生活にも興味がある。今はまだ都内でフルタイムの会社員として働いているが、そう遠くない将来には実現したいと思っている。

将来やりたいコト

せっかくブログと本業となる仕事を平行して行っているのだから、それらを活かした仕事を中心に働いていきたい。例えば僕だったら、ブログで培った文章構成力や写真を綺麗に撮るスキル、拡散力を大きな軸として、PR 業界で培った企画力や営業スキルにウェブマーケティングで得た知見を肉付けしていって、それを仕事にしてみたい。そこにこれまで知り合って「一緒に仕事をしてみたい！」と思った人たちを巻き込んで、雑誌とか動画とかメディアとか、なにか面白そうなコトができたら最高ではないだろうか。地元とか海外とか、コワーキングカフェを作ってその隣を事務所にして、オフラインでさまざまなスキルを持つ人達のハブとなりながら、自分自身もどんどん前に出て巻き込んでいけるような、そんな将来を漠然と描いている。まだまだ「これをやるぞ！」というモノは見つかっていないので、今は色々と経験を積みつつ、そのなにかをを探しながら毎日ブログを書いている。

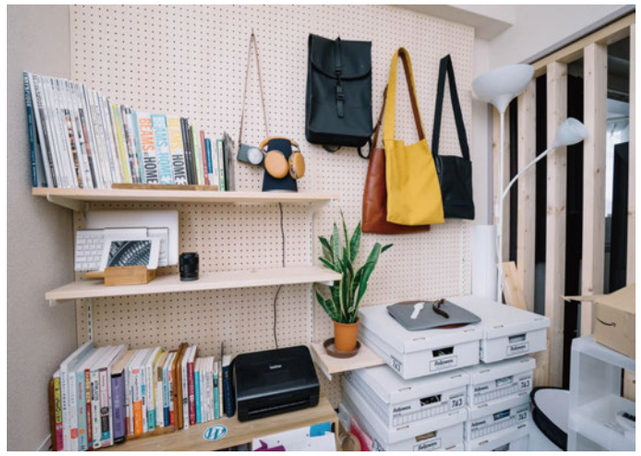
My Workspace

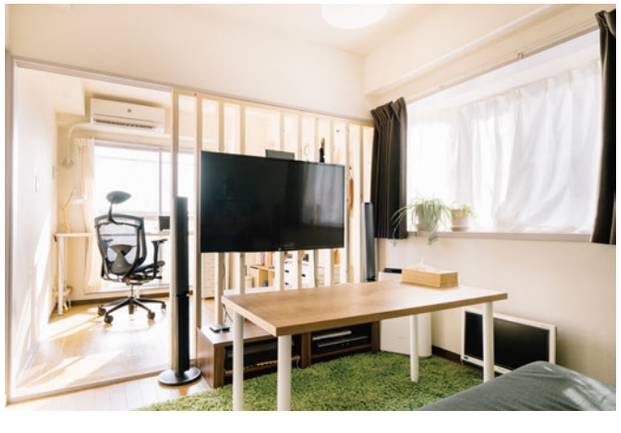
気持ち良く記事を更新するためには、お気に入りの道具と美味しいコーヒー、そして居心地の良い作業環境が欠かせない。ブログをはじめて約 3 年。これまではカフェで記事を書くことがほとんどだったが、より自分にとって最適な環境に仕上げたいとこれまでよりも広い部屋に移り住んだのはつい昨年の夏。ちょっと古びたアパートだけれど、広くて眺めの良い書斎を構えることができた。カフェで作業をしているかのような長いカウンターテーブルや、壁掛け収納ができる棚、そしてリビングに風や光を通せる仕切りなど、僕にとって最高の作業環境を実現するために DIY をしている。

Workspace

トバログの書斎

たくさんの書籍が並ぶ本棚、万年筆やクラシックミニカーなどの歴史を語れる趣味の品。ウイスキーを嗜みつつ、愉しむ自分だけの空間である書斎。男なら誰しも、書斎のある暮らしに憧れる。僕ももちろん例外ではなく、書斎のある暮らしに憧れていた。技術書やお洒落な雑誌、ガジェット小物などの趣味品が詰まった部屋で、ビールを飲みながらカタカタとキーボードを叩いてブログを書くという最高の贅沢。そんな書斎を構築するため、とあるアパートに引越してきた。書斎となるスペースはわずか 4 畳ほどの部屋。外が気持ちよく眺められる南向きの空間なので、週末朝からブログを書くのにはうってつけだ。決して広くはないものの、デスクとオフィスチェア、本棚やガジェット類などが入ればいいので、僕にとっては必要十分だ。今回の書斎の構築には、賃貸ということもあり、現状復帰できるような DIY で落ち着きのある空間にしたい。デスクや壁の収納、そしてリビングとの仕切りを自分の手で構築していくことにした。そうすることで自分が使いやすい家具を安く作ることができる。





元々、リビングと書斎となる部屋は引き戸で仕切られていたのだけれど、それではお洒落ではないし、完全に締め切ってしまうと陽の光がリビングに入らず日中でも暗くなってしまうというデメリットがあった。そこでツーバイフォー材を組み合わせてナチュラルな木材でパーテーションを組むことにしている。賃貸 DIY ということで現状復帰も簡単というだけでなく、日差しもリビングに差し込むし壁掛け TV も実現できるということで、このパーテーションを作っている。柔らかな光が差し込むこの雰囲気が、リラックスしながらブログを書くのに丁度良い。僕にとって最高の DIY となったこのパーテーションをブログに掲載したのがきっかけで、作業部屋を紹介する雑誌にて取材をしてもらうことも実現した。

僕が気に入っているのは、ディアウォールと有孔ボードを組み合わせて作った壁掛け収納ができる収納棚（写真上）。4 畳と決して広くはないスペースを最大限有効活用したいと思い、どう構築したらすっきりと収納ができて見栄えも良いのだろうと考えた末に、このディスプレイ収納が思いついた。ディアウォールと有孔ボードを用いているので、壁や床に穴を開ける必要もないため、現状復帰が可能となっている。賃貸暮らしに優しい構造だ。基本的には電子書籍で読書を楽しむ僕だが、この棚を作ってからは気に入った本や雑誌は紙で買うようになった。いつでも好きな本を手にとって読むことができるのは、まさに書斎という名にふさわしい。また今回は、カフェにある景色の良い窓際のカウンターテーブルのようなデスクも DIY している（写真下）。スタバなどのカフェのように、お洒落でスタイリッシュなカウンターテーブルを、ホームセンターとイケアの材料で DIY してみた。「自宅から徒歩 0 分の快適なカフェ空間」を目指し、好きな音楽と良い景色を眺めながらブログが書ける理想の書斎を実現した。ホームセンターで買ってきた板材を、電動丸ノコでカットして、部屋の形状にぴたりと合わせる。そこにイケアで買った伸縮できる脚を取り付けて、このカフェのようなカウンターテーブルを構築。普通に買ったら数万円はするようなナチュラルなデスクも、自分で作ればわずか数千円で手に入れることができた。これまで休日は必ずカフェで作業をしていたのだけれど、このカウンターテーブルを作ってからは、基本的に自宅で作業するようになった。電源もあるし、Wi-Fi も速いし、読みたい書籍も常に手元にある。

トバログの書斎（夜）

普段は都内の企業でフルタイムの会社員として働く僕は、平日は暗くなってから帰宅することがほとんどだ。なので、リラックスしながらブログを更新できるように、暖色寄りの照明で書斎全体のトーンをまとめている。昼間の明るい書斎とは異なり、好きな音楽をかけてビールを飲みながらブログの記事を更新することも少なくない。デスク環境はその時々によって変えているが、基本的には 4K ディスプレイに普段使っているラップトップ PC を接続して使う。両脇に備えた Bose のスピーカーは、作業 BGM としてジャズや好きな音楽をかけるときに使っている。手軽に臨場感のある音が愉しめるので、動画を観るときにも用いる。長時間座り続けるのは、身体によくないということで 2 年前に購入したのが、有名なオフィスチェアメーカーであるオカムラのコンテッサ。20 万円近くする高級家具だが、中古で 4 万円ほどで購入。作業をする際は必ずこの椅子に座る。

暗くなってからの作業環境。昼間とはまた違った雰囲気のなかでブログ記事の更新ができる

デスク上の端末の配置はその時々によって変えている

オカムラのコンテッサに座って作業をするときが一番リラックスできる

Keisuke Kawana

DIY・内装アドバイザー

大手電子機器メーカーに就職後、趣味だった木工や電子工作などのものづくりに専念すべく 2017 年に独立し、フリーの DIY・内装アドバイザーとして活動する。建築やインテリア、植物について綴るブログ「99% DIY」は、年齢問わずものづくりが好きな層に人気を博している。

今回の書斎の構築は、賃貸ということもあり現状復帰できるような DIY をする必要がある。そこで、ブロガーの繋がりで知り合っていた「99% DIY」を主催する川名恵介氏にも手伝ってもらっていた。DIY が好きな人なら一度は目にしたことがあるかもしれないが、99% DIY は「暮らしを自分で作ること」に視点を置いたブログで、毎月 14 万人以上の人に読まれる人気ブログだ。自宅のセルフリノベーション実録をメインに、雑貨や家具の DIY、インテリア、インドアグリーンなどのジャンルについてを発信する。ブログ名の "99%" というフレーズには、「社会の流行り廃れの早い流れから一度立ち止まり、個人各々が理想のライフスタイルを見つめ直す。そして自分や家族を人生の主役として理想のライフスタイルを自分で構築していこう」という想いを込めている。「日本ではまったく隙のない完璧な既製品を買うのが正しいみたいな風潮がありますよね。私個人としては作った人や企業の『好み・センス』が垣間見えるこだわりのあるモノが好きなんです。」と川名氏は話す。完成された既成品で溢れる現代社会では、欲しいと思えばお金を出すだけでなんでも手に入ってしまう。最近では " 完璧ではないけど愛着のあるモノ " や " 住まいを自分で作ることに魅力を感じている " 人も増えているように感じ、好きだったものづくりを発信しようとブログを始めたのが始まり。そんなブログを僕が知ったのはつい昨年のこと。多くのブロガーが集まるコミュニティで知り合い、ブログを見せてもらったところクオリティの高い記事ばかりが並んでいて驚いたのを憶えている。そこから定期的に話すようになった。川名氏は 2017 年に大手電子機器メーカーを退職し、フリーランスとなったことを機に、これまで続けていたブログや SNS などオンラインを中心とした活動から、DIY サポートという形で活動の場をオフラインにまで拡げている。そのタイミングで今回、僕の書斎 DIY のサポートを川名氏に依頼し、DIY の構想から資材の買い出し、組み立てなどをサポートしてもらっている。一人ではここまでクオリティの高い DIY は難しかったと思うが、DIY アドバイザーとして活躍する川名氏と DIY を行ったため、わずか 2 日間で完成している。元々はブログの読者から DIY サポートの依頼を受けていたそうだが、技術はもちろん、的確にニーズを汲み取るアドバイスや持ち前の人当たりの良さがロコミから人気を呼び、現在では予約でしばらく先までいっぱいだ。DIY をしてみたいけど何から取り掛かったら良いのか分からない、手伝いがほしいという人は、川名氏に依頼することをおすすめする。

My favorite things

昔から自分の身の回りに置いておくモノにはこだわりがある。機能性はもちろんのこと、デザインやカラーなどの見た目も重視しているのだが、とりわけ白いボディでミニマルデザインなモノが好きだ。ミニマリストを目指しているというわけではないけれど、本当に気に入ったモノだけを持ち歩くので、カラーやデザインの統一感には自信がある。完全に自己満足なので他人に見せるわけではないが、仕事をするにしても、ブログを書くにしても、お気に入りのモノに囲まれているとちょっとだけうきうきする。

Leica T（Typ701）
Leica

カメラが好きな人であれば、Leica（ライカ）の名を聞いたことがあるという人は多いはず。ライカは歴史あるドイツの光学機器メーカーで、カメラ界では老舗のブランドだ。そんなライカが、初代のパルナックライカの生誕 100 周年を記念して作られた新しいコンセプトのカメラが、この Leica T（Typ701）だ。全面フルスクリーンのタッチパネルを搭載したミラーレス一眼で APS-C センサーを搭載する。僕がこのライカを買おうと思った理由は、このミニマルなデザイン性が気に入ったから。アルミ削りだしのユニボディに、最低限のボタンとダイヤル、そしてタッチパネルのみで操作するというコンセプトが、シンプルなモノが好きな僕にとってはたまらない。レンズは Leica T と一体感のあるエルマリート TL の 18mm を装着してさんぽに出掛けるのが最近の楽しみだ。

QuietComfort 35 wireless headphones II
Bose

日本でも人気の高いオーディオメーカー Bose（ボーズ）の Bluetooth ノイズキャンセリングヘッドホン QuietComfort 35 wireless headphones II。2017 年 11 月に発売した最新モデルで、Google アシスタントで「OK, Google」で好きな音楽を流したり、近場でおすすめのレストランや天気などを音声で教えてくれるのが特徴となっている。もちろん音質も良く、ノイズキャンセリングの効果もあって深い没入感に浸りながら、好きな音楽に没頭できる。カフェで作業をするときに集中でき、満員電車でも自分だけの世界に浸りながら通勤できるので気に入っている。カラーはシルバーとブラックの 2 色展開。ちょっと高い買い物となるが、生活の質が大きく向上することは間違いない。

Galaxy Note8
Samsung

メモをしたいときに限ってメモ帳がないという事態に陥るのは、きっと僕だけではないはず。ふとした瞬間に思いつくアイデアや仕事のメモ、ブログのネタなどを、イラストを交えて書き記しておきたいときに便利なのが Samsung の Galaxy Note8 だ。これまで iPhone 7 Plus を愛用してきたのだが、シンガポールの家電量販店で初めて Galaxy Note8 のペンを使ったときに、こんなに自然に書けるものかと感動した。実は Galaxy Note は数年前にも使っていたが、その頃はまだまだ発展途上で、ペンの書き味も優れいているとは言い切れず、別の端末に買い換えてしまっていた。Galaxy Note8 のペンは、小さな紙のメモ帳に細いサインペンでメモを取っているような感覚で、使っていて心地よい。

MX MASTER 2S
Logicool

ロジクールが発売した高機能 Bluetooth マウス MX Master 2s は、デザインだけでなく機能面も優れている。Windows や Mac に専用ソフトをインストールしておけば、マウスのカーソルを PC 間で移動できる魔法のようなマウスだ。ファイルやデータの移動もそのまま行える。単純にマウスとしても優れていて、この重厚感のある丸みを帯びたフォルムが持ちやすく、レーザーマウスなので微妙な操作も行いやすい。ボタンも多いので「最小化」や「最大化」などを割り当てることで、快適に作業ができるようになっている。ブログを書くためにマウスは必須というわけではないけれど、このマウスを使っているおかげでより作業が快適になったのは言うまでもない。

Surface Book
Microsoft

昨年の夏に大阪に旅行をした際に、ついその三ヶ月前に買ったばかりの MacBook Pro が盗まれてしまった。ブログが更新できない日が続いたので、クラウドファンディングで出資を受けて購入したのが Microsoft が発売した Surface Book（2015 年モデル）だ。動画や画像編集も行えるハイスペックのこのラップトップ PC は、ブログの執筆はもちろん、Adobe のツールを使って写真の編集をしたりちょっと重い作業もサクサクこなしてくれる。この「ABOUT TOBALOG」も Surface Book だけで制作している。普段自宅では 4K ディスプレイに接続して使い、外では単体で持ち出して作業ができるというのが嬉しいポイントだ。

HHKB Professional BT
PFU

ちょっと昔のこと。前職で知り合ったエンジニアがこのキーボードを使っていて、一度使ったらやめられないよと教えてくれたのが、PFU の Happy Hacking Keyboard Professional BT（通称 HHKB Professional BT）だった。プログラマーやライターが好んで使うプロ向けのこのキーボードは、僕にとってはもう手放せない道具となっている。通常のキーボードとの違いは打鍵感にある。静電容量無接点方式という機構を用いているため、軽いタッチでカタカタと長時間文章を打ち続けられ、その打ち心地がブログの執筆を快適にしてくれる。僕はキーの表記がない方が好みなので無刻印のキーボードが欲しかったのだが、日本語配列では無刻印は売られていない。そこで自分で削って無刻印化している。

ユニックリベルタ フラットショルダー
土屋鞄製造所

しばらく悩み続けてやっと手に入れた、土屋鞄製造所のユニックリベルタフラットショルダー。このましかくなフォルムを初めて目にしたときに一目惚れをしたのだけれど、当時お金の無かった僕は購入を見送った。約 1 年後、ふらりと訪れた土屋鞄製造所 丸の内店で試着してみると、妙にしっくりとくる。「このお色はもうこの一点だけですよ」という一言で購入を決意し、おととしの秋に手に入れた。スリムな見た目とは裏腹に意外と大容量。重たい荷物を持ち運ぶとき以外は基本的にこのショルダーバッグを肩に掛けている。あまりにも気に入っているため別のカラーも欲しかったのだが、つい昨年には廃盤となってしまったため、新たに新品を手に入れることは難しくなってしまった。

トバログ

Go off on a journey

旅に出掛けるのが好きだ。とくに海外に行くのが好きで、大学に入ってからは、台湾やサイパン、中国などアジア圏を中心にさまざまな国に訪れている。昔から落ち着きがなく、一箇所に留まることが苦手だった僕にとって、海外への一人旅は最高にリラックスできる。日本とはまったく異なる文化や言語、流行りモノを五感で感じながら、とくに予定も組まずにぶらつくのが楽しい。ラップトップ PC を現地のカフェに持ち込んで、自由気ままにブログを更新するのが、僕にとっては最高の休暇だ。

Taipei

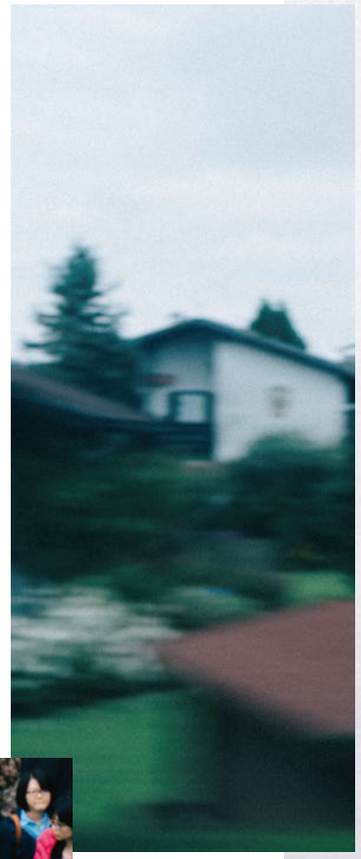
台北の旅

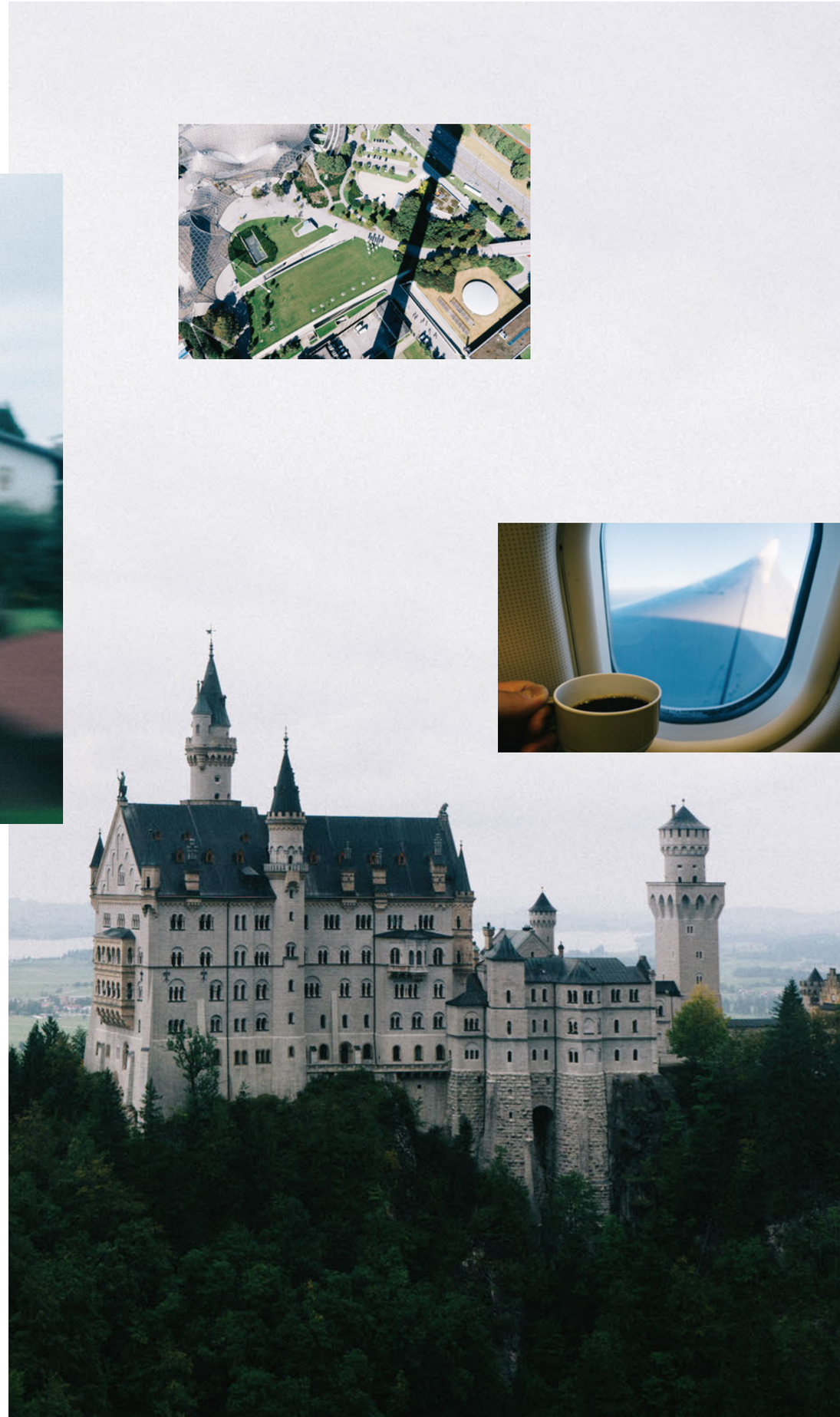
台北にはもうかれこれ 10 回以上は訪れている。東京からわずか 3 時間半ほどで到着する国にある台湾の首都なのだけれど、日本とはどこか違う雰囲気を感じるのが癖になるのが好きだ。街なかは中国語で溢れ、若者の笑い声が絶えず、どこか明るく賑やか。とくに台湾の原宿とも呼ばれる西門（シーメン）は、一度訪れたら忘れない。これといった目的もなく西門をぶらついて、日本では見かけないガジェットを買ったり、マッサージを受けて疲れを癒やす。僕が台北に旅に出ると、必ずこの街の近くにホテルを予約する。日中は光華商場でガジェットを買い漁り、暗くなったらビアバーで一杯引っ掛ける。ここは 0 時を回った夜中の西門。人が疎らになった街で、綺羅びやかに光る中国語のネオンが、ゲームの世界に迷いこんだみたいで不思議な気持ちになる。

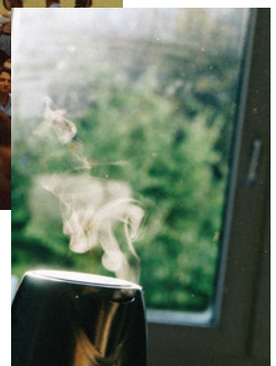
今の仕事に就く前、1ヶ月ほどの休みを取ってフリーランスのような働き方をしてみたことがあった。雑誌の編集やライティングの仕事をしたり、ブログを書いたりと、会社員時代よりも忙しく、また楽しい日々を過ごせていたと思う。シンガポールに訪れたのは、ちょうどフリーランス期間を満喫していたときだった。雑誌でシンガポーリアンの部屋と働き方を見て、実際に目で触れてみたいというのが、シンガポールを旅先に選んだきっかけだった。実際に訪れてみると、想像していたよりもずっと豊かで、アジア人の割合が少ない国だった。金融の国としても知られるシンガポールは、物価も高く、いわゆるエリートが世界中から集まっている。僕が暮らすにはちょっと窮屈かな、なんて思いつつも、さまざまな国の人々が集まっているシンガポールは、活気に溢れていて良い刺激をもらえそうな気がする。住もうとは思わないまでも、定期的に訪れたい国の一つだ。

日比谷公園のオクトーバフェストにドイツに住む友人と訪れたときに「本場のオクトーバフェストに来てみなよ。この会場の何倍も大きいし、ビールももっと安いよ 」 の一言を受けてミュンヘン行きを決めた。 1 リットルの大きなジョッキで一杯 3,000 円ほどするドイツビールを呷りながら、 2 ヶ月後のフライトの航空券を購入したのが、 7 月の夏。オクトーバーフェストの本場を見てみたいと思い、ミュンヘンへと向かった。 日本とは圧倒的な差のあるスケールのミュンヘンのオクトーバフェストは、皆ジョッキを片手に楽しそうにテーブルの上に乗って踊り狂うのが印象的だ。「Hey! お前もテーブルに乗って踊ろうぜ!」 と、陽気なイタリア人のアニキが次々に僕らをテーブルの上に乗せていく。飲みすぎた僕の記憶はそこで止まっている。

Zu den
Stuben-
Dürer-Stube
Grützner-Stuben
Terrassen-Stüberl
UND BÜRO







What’ s In Your Bag?

他人のカバンの中身に興味が湧いたのは、確か高校生のとき。元々カバンやガジェット類の小物が好きだった僕は、当時ファッション誌でカバンの中身特集を読み漁っていた。カバンの中身の特集というのは、そう頻繁に行われるものではなく、もっと色々なカバンの中身を見てみたいと、いつの間にかネットで特集を探すようになる。Flickr や mixi などの「カバンの中身コミュニティ」に投稿される写真を見てモノを買うことも少なくなかった。そんな体験から、トバログでもカバンの中身特集として、ブロガーを中心にさまざまなバックグラウンドを持つ人々のインタビューをしている。

・Mac Book Pro’s – 2.9 GHz i7
・iPhone 7 Plus
・Galaxy S7 edge
・Asumederu の財布
・Wildcat ii Stabilizer
・映像確認用モニター：Aputure VS-2 Monitor
・DJI Mavic Pro とコントローラーとバッテリー x 2
・α7 シリーズのバッテリー x 4
・α7 S ii
・ソニーのアクションカム
・レンズクリーナー
・フィルター
・Ziess Loxia 85mm F2.4
・Ziess Loxia 21mm F2.8
・Ziess Loxia 50mm F2

Brandon Lane

Laneway Entertainment

オーストラリア在住の動画クリエイター。IBM にてクライアント企業の動画広告の制作に従事。アニメーションやグラフィック技術を用いたクリエイティブが評価される。2018 年に Laneway Entertainment を設立。

オーストラリアのブリスベンを拠点にフリーランスとして活動する Brandon Lane（ブランドン）氏は、オーストラリア出身の動画クリエイターだ。現在はオーストラリアを中心に、シンガポールやアジア圏でプロモーション動画の制作を行っている。元々は IBM でプロモーション動画を制作するチームに所属していたのだが、現在は自身が立ち上げたプロモーション会社 Laneway Entertainment として活動する。僕が彼と出会ったのは約 1 年前。前職で日本アイ・ビー・エムのオウンドメディア立ち上げに参画していた際に、IBM オーストラリアから 3 ヶ月間来日していた動画クリエイターだ。互いにカメラが好きで、年齢もほぼ同じ（僕が当時 24 歳で、彼が 23 歳）ということで仲良くなった。動画を作るのが趣味だと話す彼を横目に、最初は「動画ね〜、はいはいユーチューバーでしょ?」と思っていたのだが、実際に彼が撮った動画を見て驚愕した。実写とグラフィックを上手く織り交ぜ、スタイリッシュに日常の風景を撮影し、編集している。24 歳とまだまだ若手のクリエイターだが、アニメーションからインフォグラフィック、映像などなんでも一人で制作できてしまうブランドン氏のカバンの中身を見せてもらった。

abrAsus
abrAsus
CHROME
BOSE
お気に入りの1冊を見つけよう

PRTable
TAMIYA
mercari
DG LAB
Sensor
antenna
for
Startups
THE HARDWORK
another life
airbnb
logmi
TASTY
JAPAN
NAWONAS
Catobe
www.sh-garage.tokyo
Money ForWard
COIN HOMME
EASY COME EASY GO
BuzzFeed
ANKER
wtf

FIGURES

数字でみるトバログ

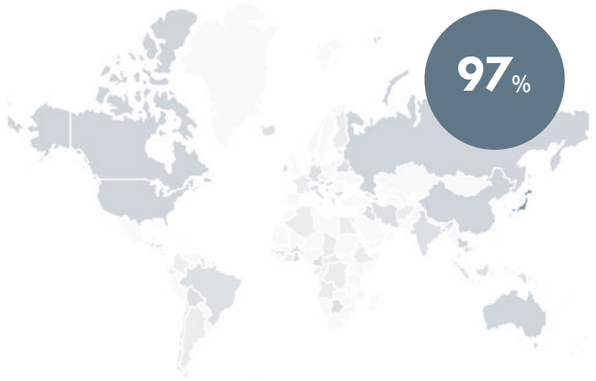
トバログの総閲覧数

9,762,283 Pageview

トバログの総読者数

6,143,580 Uniqueuser

国ごとにみるトバログの読者



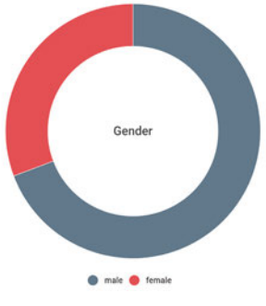
国ごとにみた トバログ読者の割合

Japan	96.7%
United States	0.87%
Taiwan	0.53%
Thailand	0.16%

日本人向けに日本語で書いているブログということもあり、読者のほとんどが日本からのアクセスであることが分かる。稀に海外からのアクセスもあるが、こちらは 1% 以下。

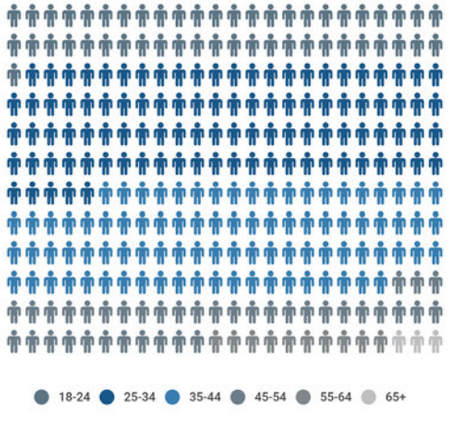
性別にみるトバログの読者

トバログの読者の趣味嗜好で男女別に分けると、約 3 割が女性で 7 割が男性だった。男性目線での記事が多い一方で DIY の記事が女性にも人気なようだ。



年齢べつにみたトバログの読者

トバログは 25 歳から 44 歳までのアクセスが過半数を占めており、次点で 18 歳から 24 歳の学生や新社会人、そして年齢が上がると共に読者の割合は減っていく傾向にある。



トバログの SNS フォロワー数

SNS は一般的なインフルエンサーと比較すると少ない傾向にあるが、Feedly の購読者数が多い。

Twitter

2,785 Followers

Feedly

2,178 Followers

Instagram

668 Followers

Facebook

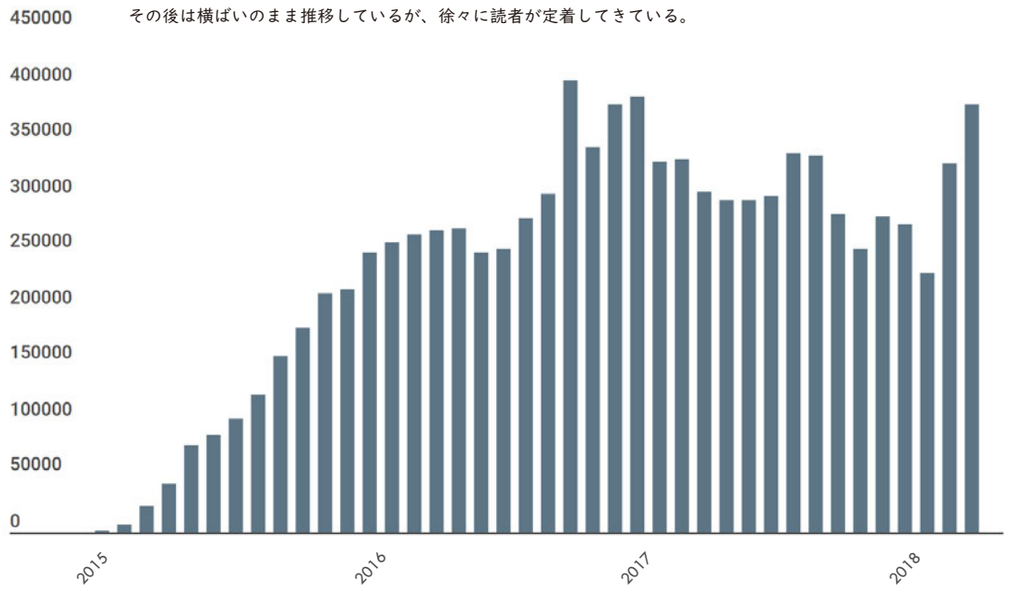
383 Likes

トバログの読者が興味を持っているコト・モノ

トバログはスマートフォンや PC などのガジェット類を多く紹介しているブログなので、読者の多くがそういったガジェットモノに興味を持っている。そのほかにも旅行や語学学習などの旅系のコンテンツや海外の生活に視点を置いている読者も少なくない印象。

トバログの閲覧数の推移（2015 年 1 月～ 2018 年 4 月）

2015 年 1 月に立ち上げてから、記事の更新数と比例してじわじわとアクセス数が伸びる。
その後は横ばいのまま推移しているが、徐々に読者が定着してきている。



Tobalog de Collection

トバログ管理人である僕が、日曜日の夜に一週間を振り返る週刊トバログ的。面白いと思った記事や感じたコト、良いなと思ったモノを、トバログ的な観点からお届けしている。ブログは自由に文章を書くことができるオアシスのような場所だけれど、人に読まれるようになると自分のコトを記事として書くことが難しく感じることがある。トバログ的は、そんな思いとかを綴る場所として連載している。

mont·bell

AFTERWORD

あとがき

とくに用事もない日には、ぶらりと代官山の蔦屋書店に立ち寄ることがある。Amazon の Kindle で本が買えたり、オンラインでほとんどの情報を得られてしまう現在、昔はよく訪れていた本屋に立ち寄る機会はずっと減っているが、蔦屋書店は特別だ。国内外問わずお洒落で洗練された雑誌が多く陳列している蔦屋書店では、写真の色味や文体の表現方法など、なにかブログに取り入れられる表現方法はないかと模索するためには絶好の場所なのだ。僕が蔦屋書店に立ち寄るとまず、海外のデザイン誌やインテリア本を手に取る。写真の配置や色味の表現、多種多様なフォントなど、さまざまな表現を用いている雑誌は、1 ページずつそれぞれ異なる物語があって、パラパラとめくるだけでもワクワクする。

韓国のブランドドキュメンタリー雑誌「B」を初めて購入したのは、蔦屋書店で B を見かけ、この「雑誌のような紙媒体を自分で作ってみたい」と思ったからだった。B は毎号、ブランド力のある地域や企業、製品について、1 つのブランドだけを深掘りして紹介している紙媒体。広告などは一切掲載していないため、他の雑誌媒体と比較しても内容が厚く、ニュートラルな立場で紹介されている点が特徴だ。毎号すべてのブランドストーリーが洗練されていて、読む人を魅了する。「紙ってこんなにも自由なんだ」と衝撃を受け、この雑誌のようなコンセプトで自分のブログを紹介する冊子を作ったら面白いんじゃないかと、今回「紙のトバログ」を試しに作ってみたのだった。

「本来出版とは自由なものなのでしょう。私は本を自由に作るためにひとりですべて行っているのです。大きな出版社では時間も予算もアイデアも制限されてしまいますから——」。松浦弥太郎氏の著書で見つけた、とある台湾の編集者の言葉で、僕にとっても響いたフレーズの一つだ。僕自身、ブログをここまで続けて来られたのは、きっと誰にも干渉されずに一人で完結できてしまうから。企画も予算もすべて自分次第で、時間をかければかけるほどに良い記事ができあがるのを知っていた僕は、今回紙のトバログを制作するにあたっても一人で行ってきた。誰も巻き込まないというのは、自由に表現できる分、時間がかかる。実際に紙のトバログを作ってみようと思ってから、完成までは、1 年近くかかってしまった。ほとんど使ったことがないツールを組み合わせたり、ページ構成や文字の組み方、写真の選定などは、思っていたよりもずっと難しい。それでもトバログを紙で表現してみたいという思いを持ちつつ、ベータ版ではあるが、この第一号となる「ABOUT TOBALOG」が完成した。もし B がトバログを取り上げたらどんな構成になるだろう？ というのをイメージしながら、第 1 弾はこれで完成とした。本当はもっと紹介したいこともたくさんあるのだが、それはいつ出せるかも分からない次号に取っておきたい。

鳥羽 恒彰

トバログ

Tobalog is one of the most popular gadget blog in Japan